

安全データシート ~ Safety Data Sheet

G-Degrease

1. 製品および会社情報

製品名: G-Degrease (ジー・デグリース)
 製品番号: GFR-01
 推奨用途: 組織染色用標本サンプルの脱脂剤
 使用上の制限: 上記の用途以外で使用しない

会社名: ジェノスタッフ株式会社
 住所: 〒113-0032 東京都文京区弥生 2 丁目 5-8 GSビル
 電話番号: 03-5615-8857
 FAX 番号: 03-5615-8858
 電子メールアドレス: support@genostaff.com

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性:	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分 3
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	区分に該当しない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
	健康に対する有害性:	急性毒性(経口)
急性毒性(経皮)		分類できない
急性毒性(気体)		区分に該当しない
急性毒性(蒸気)		分類できない
急性毒性(粉じん)		分類できない
急性毒性(ミスト)		分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない

	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性:	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示:



注意喚起語: 危険
危険有害性情報: 引火性液体および蒸気

注意書き:

- 【安全対策】** すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
火気のある場所、火花や静電気を発生するもの、高温熱源等の付近では絶対に使用しないこと。
また、電気設備や電気機器は防爆構造とし、機器類は全てアースをとること。
静電気対策を行い、帯電防止作業服、静電安全靴等を着用すること。
取扱い作業場所では、密閉設備または局所排気装置を設けて、十分に換気を行うこと。
保護手袋、保護眼鏡、保護面等、保護具を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
中身を容器から出し入れする場合は、周囲にこぼれないように十分注意すること。
取扱い後は手洗い、うがい等を行うこと。
環境への放出を避け、容器を密閉しておくこと。
指定された用途以外には使用しないこと。
- 【緊急時対応】** 火災の場合には適切な消火方法をとること。(粉末、炭酸ガス、泡、等)
漏洩の場合には、速やかに適切な方法で回収すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露 またはその懸念がある場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚(または毛髪)に付着した場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱いで取り除き、多量の水と石鹼で洗うこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

- 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。
直ちに医師の診断、手当てを受けること。
- 【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
子供の手の届かないところに保管すること。
- 【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

製品の区別： 単一物質
毒物及び劇物取締法： 非該当

化学名または慣用名	含有量 (wt %)	化学式	既存 化学物質番号	CAS No.	PRTR 法 政令番号	安衛法別表 第 9 物質番号
水素化精製重質ナフサ	90~100	-	9-2486	非公開	対象外	対象外

4. 応急措置

- 吸入した場合： 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
汚染された衣類を脱ぐこと。
- 皮膚に付着した場合： 皮膚を速やかに洗浄すること。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
医師の診断、手当てを受けること。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
- 眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
この液体は肺に入ると化学性肺炎の危険が増すので、吐き出させてはならない。
医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入した場合： 咳、めまい、し眠、頭痛。
皮膚に接触した場合： 皮膚の乾燥、発赤。
眼に入った場合： 発赤、痛み、かすみ眼。
飲み込んだ場合： 咳、めまい、し眠、頭痛。
- 最も重要な兆候および症状： 有用な情報なし
応急措置をする者の保護： 火気に注意する。
有機溶剤用の防毒マスクが有ればそれを着用する。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災： 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災： 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤：	棒状注水 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
特有の危険有害性：	熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、または腐食性のガスを発生するおそれがある。 引火性の高い液体および蒸気
特有の消火方法：	散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護：	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止および保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていないときは、破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項： 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
環境中に放出してはならない。

回収、中和

少量の場合： 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合： 盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

封じ込めおよび浄化の方法・機材：

危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策： すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気:	「8. ばく露防止および保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
保管	安全取扱い注意事項:	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入または飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
	接触回避:	「10. 安定性および反応性」を参照。
	技術的対策:	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はり可不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は適当な傾斜をつけ、かつ、適当な溜升を設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
	保管条件:	直射日光や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 施錠して保管する。 危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
	混触危険物質:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
	容器包装材料:	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

曝露限界値:	設定されていない。
設備対策:	蒸気の発生源や取扱い作業場所には、密閉系設備または局所排気装置等を設ける。 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	呼吸器の保護具: 適切な呼吸器保護具を着用すること。 手の保護具: 適切な保護手袋を着用すること。 眼の保護具: 適切な眼の保護具を着用すること[保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)] 皮膚および身体の保護具: 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策:	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など:	透明な液体
臭い:	芳香臭
pH:	中性
融点・凝固点:	-40°C以下
沸点、初留点及び沸騰範囲:	145~170°C
引火点:	33.50°C(タグ密閉)
爆発範囲:	下限 0.6vol.%、上限 5.6vol.%
蒸気圧:	-
蒸気密度(空気=1):	-
密度:	0.791g/cm ³ (20°C)
溶解度:	[水] 水に難溶 [他]有 機溶剤に溶解する。
自然発火温度:	240°C以上

10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の手扱いにおいては安定である。 加熱により発火する。 流動、攪拌などにより、静電気が発生することがある。
危険有害反応可能性:	強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件:	加熱。高温。
混触危険物質:	強酸化剤。強酸。強アルカリ。
危険有害な分解生成物:	加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性(経口):	分類できない
急性毒性(経皮):	分類できない
急性毒性(気体):	区分に該当しない
急性毒性(蒸気):	分類できない
急性毒性(粉じん):	分類できない
急性毒性(ミスト):	分類できない
皮膚腐食性/刺激性:	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	分類できない
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性):	区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性):	区分に該当しない
オゾン層への有害性:	区分に該当しない
その他の情報:	現在のところ有用な情報はない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器および包装:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報IMOの規定に従う。 UN No.: 1223 Proper Shipping Name: KEROSENE Class: 3 Packing Group: III Marine Pollutant: Not applicable 航空規制情報ICAO/IATAの規定に従う。 UN No.: 1223 Proper Shipping Name: KEROSENE Class: 3 Packing Group: III
国内規制	陸上規制情報 消防法、道路法の規定に従う。 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。 航空規制情報 航空法の規定に従う。
特別の安全対策	危険物は当該危険物が転落し、または危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物または危険物を収納した容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令

消防法:	第2条 危険物 第4類 第2石油類(非水溶性液体) 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法:	施行令別表第1 : 危険物 (引火性のもの)
有機溶剤中毒予防規則 :	非該当
毒物及び劇物取締法:	非該当
PRTR法:	非該当
船舶安全法:	危規則 第3条 危険物 告示別表第1(引火性液体)
航空法:	施行規則第194条危険物告示別表第1 (引火性液体)
大気汚染防止法:	非該当

※この物質に関する貴国または地方の規制を順守して下さい。

16. その他の情報

SDS の作成と改訂 作成: 2023 年 12 月 20 日 SDS-030-R1.0
改訂:

参考資料: 各原料メーカーSDS
中央労働災害防止協会安全衛生情報センター
製品評価技術基盤機構(NITE) など

その他: 記載内容の取り扱い

記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては如何なる保証をなすものではありません。

現時点で入手できた情報/資料に基づいて作成していますが、新しい知見の発表や従来の説の改訂及び試験、法令の改正などにより内容に変更や改正が生じることがあります。

また、記載事項は通常の取扱いを対象としたもので、使用者の特別な用途での使用、注意事の無視、または材料固有の性質により生じた障害や損傷には責任を負いません。特別な取扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。

全ての化学品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは保証出来ません。

ご利用者各位の責任において、安全な使用条件を設定して下さいようお願いいたします。

本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないでください。

本品を安全に使用し、すべての法律および規定に準拠することは、取り扱う事業者の責任です。

本品を取り扱う事業所の事業主は、本データシートに記載されている危険性および従うべき注意事項について、関わりのある従業員および関係者に通知する義務があります。また、リスクアセスメントの実施をお願いいたします。